

授業の引き出し

「回転木版画」制作

県立柏中央高等学校 美術担当教諭 春日 直美

はじめに

「回転版画」は東京学芸大学版画研究室の清野泰行教授の研究課題で、同大学美術教育学部での木版画授業を受講したことを実践しています。

正方形の版に、3原色のインクをそれぞれ同じ紙の位置に90度ずつ傾けて、1回ずつ摺る方法です。偶然できる色の重なり的美しさが魅力的な表現です。但しオートマチックにできる利点がある分、評価の観点について工夫する必要があると思います。

【本校での授業展開】

1年の3学期に実施 91～92名受講（2、2、2、3クラス展開、1講座20～31名）
2時間続きで6回、12時間とっているが、早い生徒は4回、大半は5回で終わる
但し、下図の制作は含んでいない。

下図の宿題 2学期の終わりの授業にて参作を掲げてオリエンテーションをする

・動物、昆虫、魚など「生き物」の写真（図鑑やネットなど）を参考に、指定の用紙に描く。最初の授業で、参考にした資料のコピーも持参する。

・動物は、版画ではシルエット、影絵の表現になること（パンダやペンギンなど、白さを表現するような動物は不向き）に注意させる。

・正方形の画面の中の、動物の配置の仕方を意図させる（実は評価の分かれ目）。

材料、用具（価格参考 h27年度、業者L）

生徒消耗品 ベニヤ合板（180mm四方にカット、6mm厚＝336円）

共用材料 水溶性版画絵の具 赤、黄、藍、黒、茶 400g

（1本1,382円を茶以外2本ずつ）

アクアメディウム 300ml ＝726円を2本

インク練り板（赤、黄、藍、黒、こげ茶用）

スポンジローラー

越前鳥の子紙 八つ切り 100枚組 1,728円

（ナチュラル、白＝どちらか好きな色で1人3枚）

→22cm四方に切り分ける

マスキングテープ、トレーシングペーパー、カーボン紙、わら半紙

バレン、彫刻刀、押さえ板、雑巾、たわし

*見当板（手作り、木工用ボンド使用）

計 例年ひとり 1,000円以内

1 週目

導入 教科書にて版画の様々な技法や歴史について説明

下図作り

主版（宿題）… モチーフはシルエット的、影絵のような表現〈陽刻〉

背景版 … 抽象的な表現〈陰刻〉～下描き紙を与えるか、直接ベニヤ板に描いてもよいと指示

- ・中心に模様を配置しない（版を回転して3回摺るため、いつも同じ個所が白く抜けてしまう）

- ・画面の中で大、中、小の模様の大きさを配置する。大きいものは、画面からはみ出るくらい（白く大きく抜ける個所があると、色がそこに重ならないので発色がよい）

ベニヤ板両面に、それぞれ絵柄をトレースさせる（絵を反転したくない場合は、下図をトレーシングペーパーに写してから、カーボン紙を挟んでなぞらせる）

2、3週目

背景版彫り

〈陰刻〉模様自体を凹ませる彫り方

①三角刀で輪郭線をなぞる ②丸刀で彫り下げる

合板ベニヤの芯材まで彫り過ぎないように注意させる

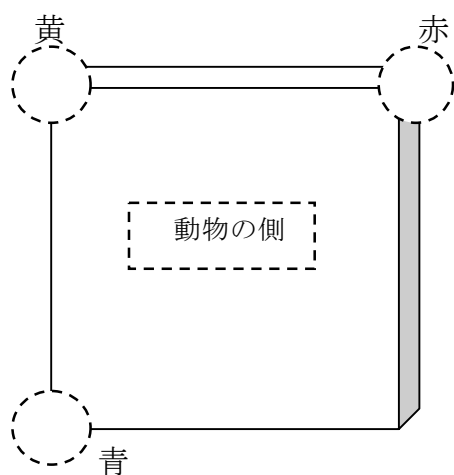
背景版の摺り

{準備} 紙を一人3枚選ばせる（白かクリーム色か）

1. 裏面に鉛筆で組、氏名の記入と、右下に黒ぼちなどの印をつける
(左利きは左下)

2. 版の角に油性ペン3色で印をつける

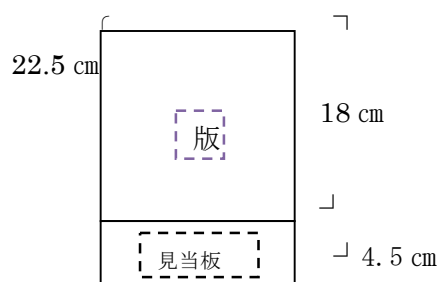
版木 (マークするときの版は上下逆さまの位置で)

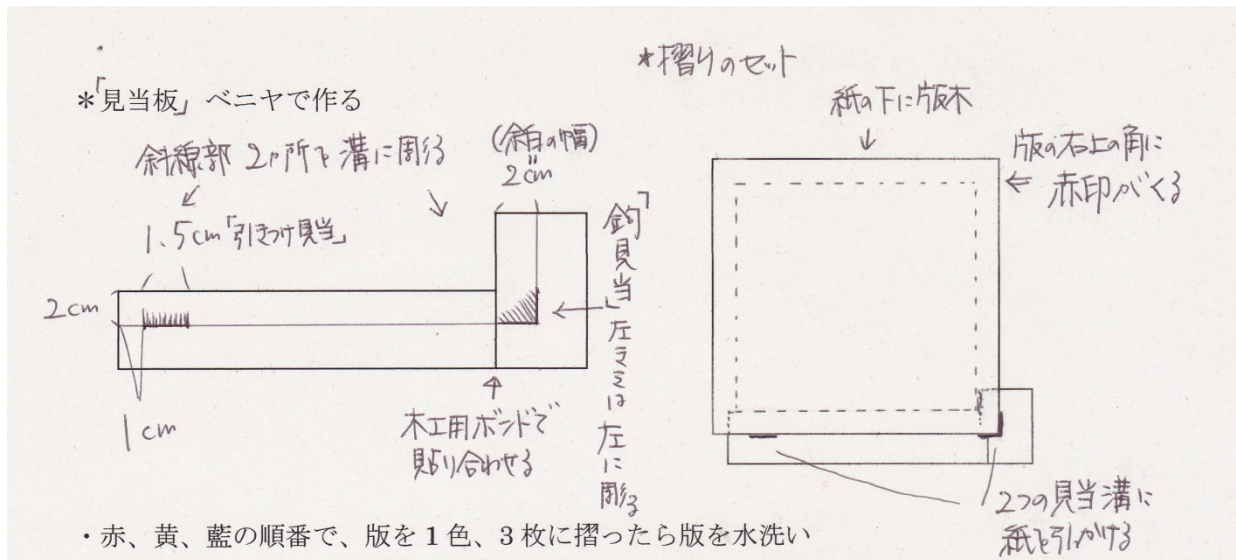


マーカーで、厚みの角にそれぞれ色をつける

*見当板の準備について

版となるベニヤの注文の際に、40裁で注文する。18cm四方で裁断後の余りの面で、次ページにあるように、右側部分については別途板を用意して、ボンドで張り合わせて作成した。





{摺り方}

- ・その日に初めて摺る場合は、最初だけ版を水で湿らせて、ふき取る。
- ・赤、黄、藍の順番で、版に1色つけ、1枚に摺る。赤色を、毎回インクをつけて3枚に摺ったら版を水洗いしてふき取り、次の黄色を付ける
- *赤と藍は、「アクアメディウム」を1対3くらいの割合で混ぜる。黄は混ぜなくてよい
- *絵の具の濃度は、かすれるような摺り加減で。ローラーへの絵の具の付き具合を加減させる
- ・次の色では、版を摺ろうとする色の印が右上になる位置に90°回転して置き、見当板にセットする

見当板を使つての、版への紙の置き方など、摺り方を実演して見せる
あて紙をして、バレンで擦る



図1 鉤見当に黒ぼち印のついた角を合わせる
(写真は左きき)

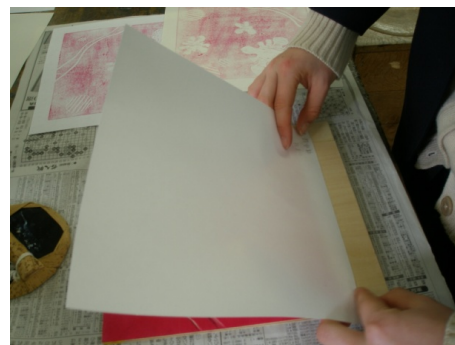


図2 両方の見当に親指で紙を合わせて押さえたなら、人差し指と中指ではさんだ紙を離す

3、4週目

主版彫り

〈陽刻〉動物の周りを彫り下げる

- ①切り出し刀、三角刀で輪郭をなぞる
- ②丸刀で輪郭線の周りを彫ってへこませる
- ③丸刀で周囲を板目と平行に彫り下げる

わら半紙で試し摺りをさせて、足りない箇所は彫らせる

4、5週目

主版の摺り

黒、またはこげ茶（黒と茶のインクを混色）は、背景版と違って、濃い濃度で摺らせる

3枚摺って、1枚を提出



図3 生徒作品

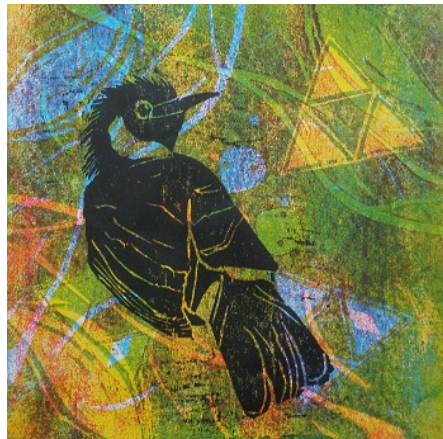
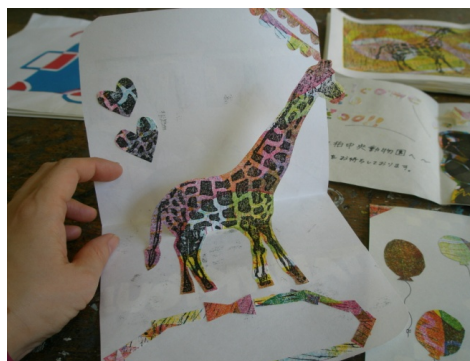


図4 生徒作品

5、6週目

「グリーティングカード制作」

提出しなかった作品や試し摺りを部分的に切り抜いて、台紙（版画用紙の余り）にコラージュする



【評価の観点】

- ・正方形の画面の中での、動物の配置の在り方（構図）、トリミングの仕方に工夫があったか
- ・動物のイメージの背景デザインができたか
- ・回転して摺る仕組みを理解して作業できたか
- ・背景の重ね摺りの色彩効果をねらって、絵の具の量や摺り圧の工夫ができたか

参考文献

「回転版画による版画教育についての研究—こども講座での実践を通して—」

清野泰行

東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系 第61集 平成21年10月